

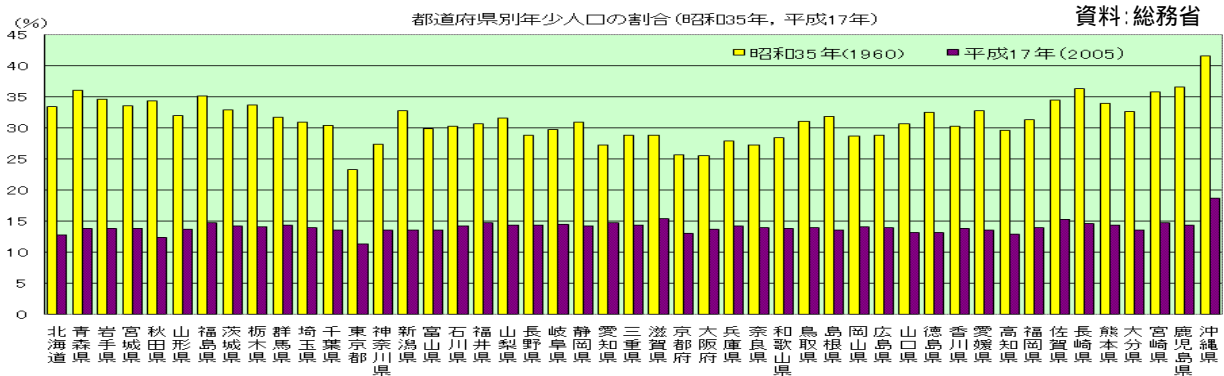


国勢調査から分かること



平成22年10月1日

国勢調査の実施(10月1日)がもう間近となりました。今回は、皆さんから提出された調査票の集計結果でどのようなことが分かるのか、また、どんなことに使われるのかについて説明します。



上記のグラフは、平成17年と昭和35年の国勢調査時の「都道府県別年少人口の割合」を示したものです。

このグラフを見ると、年少人口の割合は両年とも沖縄県がトップで、47番目が東京都となっています。また、昭和35年に比べると全都道府県とも大幅に減少していることが分かります。

国勢調査は、さらに“人口の変遷と高齢化”や“世帯数の増加と世帯規模の縮小”、“配偶関係-未婚率の上昇”、“労働力人口-年齢構成、産業・職業別の構成”といったような様々なことが明らかになります。

調査結果はどんなことに使われるのか？

・現在人口や将来人口の推計、人口分析など学術研究での利用

我が国の社会経済の現状や将来を考える上で最も基本となるのが人口の動向ですが、これに必要となる現在人口の推計や将来人口の推計は、いずれも国勢調査の結果を基に行われます。

・経済政策の策定のために

国勢調査から得られる男女・年齢別の就業者数、産業別・職業別の就業者数などの統計は、各種の経済政策の策定のために欠くことのできない資料として利用されます。

・住みよい街づくりのために

国勢調査は、人口密度、昼間人口・夜間人口、年少人口、高齢者数、産業別就業者数などの地域基盤を表す資料を提供しますが、市区町村ごとの結果だけでなく、もっと小さな地域についても精度の高い統計が得られることから、地域の生活環境などを整備していくための基礎資料として、欠くことのできないものとなっています。

・地方交付税の算定

現在、ほとんどの都道府県や市町村が、国から地方交付税の交付を受けています。この交付額は、各自治体間の財政のバランスをとり、自主的で計画的な行政を運営するために、大きな役割を果たしています。

上記の他にも、さまざまな施策の実施や計画の基になります。

**あなたの調査票から日本の未来が見えてきます。
調査結果が有効に利用されるためにも皆さん1人1人の協力が必要です。**

